

「ひょうご・トルコ地震防災対策プロジェクト」調印 並びに「ひょうご・地震防災対策セミナー」開催

ひょうごトルコ友愛基金



1999年、トルコ共和国北西部イズミットで大地震が発生。大きな地震被害が同地を襲いました。阪神・淡路大震災を経験していた兵庫県では、地震による同じ被災者を支援したいという強い意志から多くの義捐金が寄せられ、それら200万ドルを財源として「ひょうごトルコ友愛基金」が設立されました。

この基金は、被災した児童が義務教育を終わるまでの間、延5,700人を超す震災遺児、孤児に対し奨学資金として給付され、勉学・生活への支援が行われるなど大きな成果が得られてきたところです。

ひょうご・トルコ地震防災対策プロジェクト始動

今回、全ての被災児童が義務教育を修了し、同基金が所期の目的を達成するという大きな節目に当たり、基金に込められた志を引き継ぎ、これからのトルコの地震防災対策に向け、新たに「ひょうご・トルコ地震防災対策プロジェクト」として取り組むこととなりました。

同国では地震防災対策への関心が高まっていることから、今後、防災対策に関する人材育成等をはじめ、社会・教育・文化の三分野において様々な事業展開がなされる予定です。

プロジェクトの始動は、来年2014年。これに先立って10月31日、首都アンカラにて、兵庫県の井戸知事と土日基金サドクルル理事長の間で、プロジェクトの協定調印式が行われました。



ひょうご・トルコ地震防災対策セミナー

また、この調印式に引き続き、「防災・減災を学ぶ」をテーマにして「ひょうご・トルコ地震防災対策セミナー」を開催。冒頭に井戸知事から「阪神・淡路大震災の教訓を生かした防災対策」と題した基調講演がなされた後、トルコと兵庫県の防災対策関係者によるパネルディスカッションが行われました。

中東工科大学防災研修所長や、トルコ政府緊急事態管理庁トレーニングセンター長など、日本・トルコ両国からの5名によるパネルディスカッションが行われ、当協会 齋藤理事長からは、兵庫県における地域（コミュニティ）の防災力強化のための取組み、特に自主防災組織の育成等についての報告がなされ、約200名の参加者は、注意深げに発表に聞き入っていました。

